教育研究所だより

60th

活動の啓発ニュース　№８２
平成２９年（２０１７年）１月１０日
明　石　市　教　育　研　究　所

明石藩の『お台場』

講読史料１⇒現代文（現代語訳　義根氏）

借用申銀子之事
合銀百八拾七貫弐百目也
内
百貫目　元銀
但、天保十五辰年出銀
八拾七貫弐百目　利滞銀
但、去ル辰正月より当
子十月迄百九ヶ月分
月八朱

右の金額を松平兵部大輔殿勝手方要用のため借用します。一ヶ月につき八朱の利息を加え、来る丑年十一月までに元利とも間違いなく返済いたします。後日のため、証文としてここに記しておきます。

嘉永五壬子年十二月　牧野久左衛門
松山助八郎
菅　小十郎

柴屋丈助殿
吉坂又右衛門殿

表書の通り相違ありません。
高桑新内
西村先之進
久世三九郎

古文書の原文・翻刻文はNo.81に掲載してます

講読史料２⇒現代文（同左）

手紙にて申し上げます。さて大坂東町奉行所芝田日向守殿より、昨十五日十時に呼出があり出向いてきました。

係の与力・八田種蔵から尋ねられたのは、このたび異国船来航に際して海岸防備対策を強化する旨の御沙汰が江戸表よりあった。そこで当奉行所が管轄する幕府領の警衛防禦にあたって援兵要請をお願いする藩について、現在調査しているところである。調査結果がまとまり次第、江戸表へ伺書を提出する予定である。お分かりなら承りたい。奉行所では兵庫津は明石様の御持場、西宮駅は尼崎藩の持場と承知している。では八部郡はそちら様（明石藩）の御持場と解釈してもよろしいか。じっくりと慎重に調査されお答えいただきたいとのことでした。この件についてどのように返答すべきか、御指図下さいますようよろしくおねがいいたします。

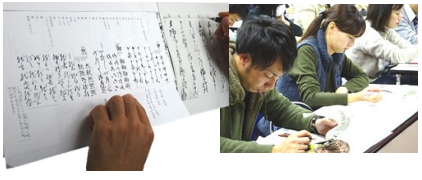
約170年前、明石海峡を我物顔に通過する異国船を撃破する目的でつくられた舞子砲台。

現在は、明石海峡大橋の下を通過する大小さまざまな船を、レプリカの大砲が静かに見守っている！

しかし、近づいてよく見ると…。

第３回あかし若手教師塾
平成２８年１１月２９日（火）明石市文化博物館
講師：明石市文化博物館　義根　益美
演題：**学校で教えたくなる明石の歴史**

ふるさと明石学

大砲の形をした**椅子**でした。

西暦	和暦	明石藩の出来事（その他の歴史的出来事）　※講義資料より抜粋
1849	嘉永２	（4月イギリス軍艦マリナー号来航、12月諸大名に対し海防強化の令を発す）
1850	嘉永３	（尼崎藩は幕府の海岸防備強化の命に従い、尼崎浦から生田川に至る海岸警備を固める） 海岸防御のため中崎浜に警備を置く。12月幕府から三千両貸与
1851	嘉永４	6月幕府から三千両貸与
1852	嘉永５	柴屋丈助との借用証文の書き換えを行う
1853	嘉永６	（6月ペリー艦隊四艘浦賀に来航）大蔵谷八幡浜、舞子東浜、出崎浜に砲台を築く。 （7月ロシア海軍中将プチャーチン、長崎に来航）
1854	安政元	（1月ペリー、浦賀に再び来航。3月日米和親条約調印。9月ロシア海軍中将プチャーチン函館を出航し大阪に向かう。途中淡路方面に北上明石郡東垂水沖で進路変更し兵庫和田岬沖へ）
1861	万延元	イギリス商船が東水主沖に碇泊。
1862	万延２	イギリス商船が東水主沖から退去するまで6カ所の門を閉じて警備にあたる。
1862	文久２	垂水村丘上、山田村、狩口丘上、稲爪神社浜、中崎山助山、中崎水主町、波止崎、築山、松江の9カ所に砲台築造
1863	文久３	4月総費用二万両のうち一万両を幕府より貸与され6月より舞子砲台を改築開始
1865	慶應元	（英・米・仏・蘭の艦隊が兵庫沖に碇泊）